

一休が愛した寺でひと休み。



【方丈庭園(南庭)】宗純王廟と虎丘庵を背景とした禅苑庭園。



一休禅師木像

一休禅師が逝去する前年に、高弟・墨濟禅師に命じて作らせた像。自身の頭髮と髭を植えた跡が残っています。重要文化財。

京都府南部に位置し、大阪・奈良との府県境にも近い京田辺市。交通の要衝として古くから文化が開け、豊かな自然にも恵まれたエリアで、日本屈指の品質を誇る玉露の産地でもあります。

鎌倉時代、臨済宗の高僧・大應国師(南浦紹明)が、釈迦如来坐像を本尊として、この地に「妙勝寺」という禅寺を創建しました。そして、元弘の乱(1333年)の戦禍で荒れ果てた寺を再興し、師恩に報いる意味で「酬恩庵」と命名したのが一休宗純(1394~1481年)。大應国師の六代の法孫で、「一休さん」と親しまれている禅僧です。

一休は京都生まれ。後、松天皇の落胤とされ、政権の混乱を避けて6歳で安国寺に入門しました。若い頃は諸国を放浪しながら修行。一休の名は大徳寺の高僧・華叟宗曇(かそうそうどん)により、「有漏路(うるち・煩惱の世界)より無漏路(むろろぎ・悟りの世界)へ帰る一休み 雨ふらば降れ風ふかば吹け」という一休の言葉から道号として授けられました。晩年は酬恩庵に定住。81歳で大徳寺の住職となってもここから通い、88歳で病没。今も境内で眠っています。

生前、一休禅師は、京都東山にあった茶室造りの「虎丘庵」を、戦乱から守るために移築。わび茶の創始者・村田珠光や能役者・金春禅竹(こんばるぜんちく)ら文化人と交流しました。一方で、蛋白質が豊かな保存食「一休寺納豆」の製法を伝えるなど、応仁の乱で飢えた庶民のためにも行動しています。さんばら髪に無精髭、破天荒なふるまいは、禅僧とは程遠い姿でした。しかしそれは、人々に格式張らず接するのが目的で、「形にとらわれるのではなく、精神が大切」という教えや権力者への風刺も込められたもので、と云われます。

没後も一休禅師は多くの人に慕われ、江戸時代には説話「一休咄」が作られたことで、「とんちの一休さん」として有名になりました。また、加賀藩前田家が寄進した方丈と玄關の唐門、庫裏、東司などは重要文化財に指定。江戸初期の一流文化人らが作庭した方丈庭園は国指定名勝です。大小の石を十六羅漢になぞらえたとされる東庭、禅院枯山水の蓬莱庭園である北庭。そして宗純王廟と虎丘庵を背景とする南庭は、四季の美と悠久を感じられる禅苑庭園です。

庭園を眺めていると、「一休禅師の「なるようになる。心配するな」という言葉が浮かびます。一瞬を大切に生き、まっさらな心で発想を転換して未来を拓く。現代にも通じる、人生へのエールでしょう。

【アクセス】学研都市線 京田辺駅から徒歩約20分
【拝観時間】9:00~17:00、宝物殿は9:30~16:30

【拝観料】一般(中学生以上)500円、小人(小学生)250円
【お問い合わせ】☎0774-62-0193(酬恩庵一休寺)

「お茶の京都博」期間限定店舗

「お茶の京都ハウス きょうたなべ」

「お茶の京都博」の一環として、期間限定で営業するショップ。今回の「ちょこっと関西 歴史たび」にお越しいただいた方は京田辺市産の高級玉露を無料で味わうことができます。

- 期間 / 1/13(土)~3/31(土)の金・土・日・月
- 時間 / 10:00~15:00
- お問い合わせ / ☎0774-64-1364
(京田辺市 経済環境部 産業振興課(平日9:00~17:00・12/29~1/3休))



このハシ渡るべからず

